

GSEF2018 ビルバオ大会・概要

2018年11月23日

若森 資朗

GSEF(グローバル社会的連帯経済フォーラム)は、2年1回国際大会を開催している。今年準備大会を含め第4回大会にあたり、スペインのビルバオ市で「GSEF2018ビルバオ大会」として10月1~3日、84カ国、1700名の参加で開催された。日本からは「ソウル宣言の会」が呼びかけた「GSEF2018ビルバオ大会・日本実行委員会」としては、現地合流を含め44名で参加した。他にはワーカーズ・コープや学者、研究者等10名近くが参加した。しかし日本からは、国の行政機関や自治体からの参加はなく課題を残した。私たちとしては重要事項(GSEFは、地方自治体と市民との連携を強く意識)と捉え、何人かの市長とも面会を行い、大会趣旨の説明と参加を呼びかけたが、公務などで不調に終わった。今回は新たに市民活動家、大学院生などの若い研究者や活動家、今年4月に発足した「JCA(日本協同組合連携機構)」からも参加があった。日本でも「社会的連帯経済」に対する関心が高まっていることを感じた。国際的にはILOや、国連社会的経済研究所(ジュネーブ)等、国連機関の参加や、モンブラン会議、RIPESS等の国際団体、世界のGSEF会員、準会員だけでなく、ニューヨーク市やケソンシティ、次回2020年の開催地となったメキシコシティ等、多くの自治体の参加があった。

大会の内容については本誌に、それぞれの立場からの報告が掲載されている。それでも分かるように多様な報告と論議がなされ、大会の充実ぶりが理解されるであろう。

今回は「ビルバオ大会・日本実行委員会」で取り組んだが、2年後のメキシコシティ大会には一段と枠を広げるべく「社会的連帯経済日本協議会(仮称)」として参加したいと考えている。また、是非とも国の行政機関や自治体からの参加を促したい。そのための活動を早速準備して行く。